

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和4年10月5日  
枚方市立中宮中学校

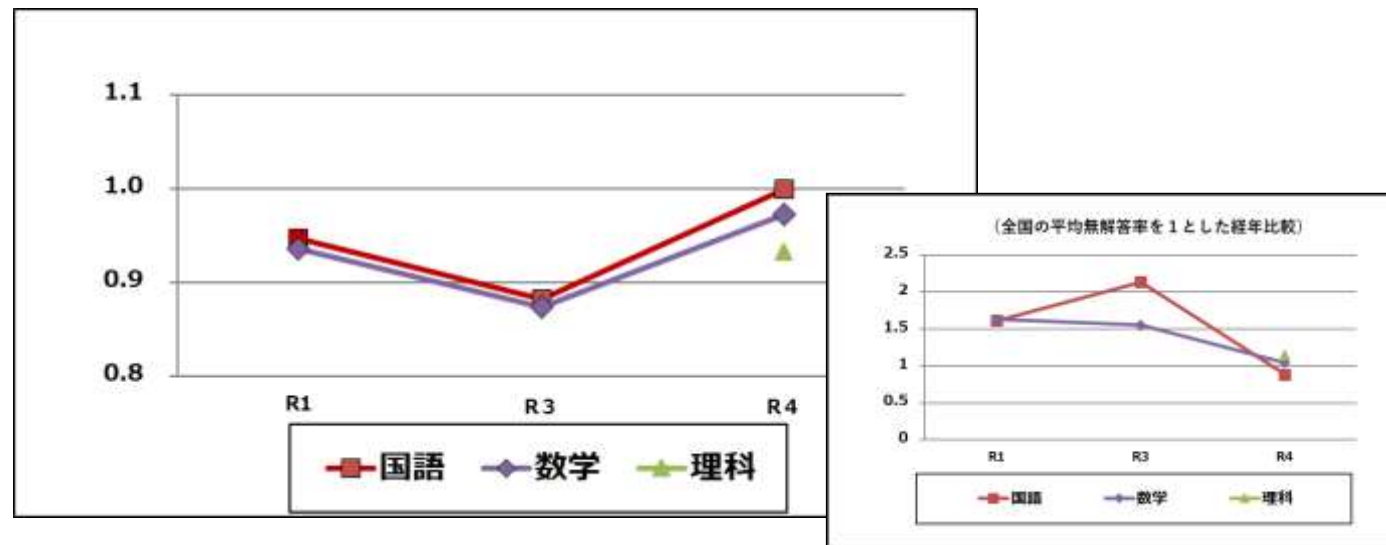
文部科学省が今年4月に実施した、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、生徒の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

## 【全体概要】

### 学力調査の結果

※調査結果について  
教科や出題範囲、内容が限られているなど、テスト形式で行う全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分にすぎません。

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。



※令和2年度は中止のため、掲載していません。また、理科は令和元年、令和3年度、未実施の為、掲載していません。

### <学力調査結果の概要>

#### ○国語について

→本校の平均正答率は全国(公立)平均と同じ69.0%で府(公立)平均を2%上回りました。さらに、無解答率は全問題で対府平均より低く、問題を解こうという意欲があるということが分かります。また、書写や漢字などの知識問題は平均を大きく上回る一方で、生徒自身が自ら文章を考え、書く問題の正答率は低く、知識・技能と思考・判断・表現の正答率に大きく差がでています。

#### ○数学について

→本校の平均正答率は50.0%となり、全国の平均51.4%、大阪府平均51.0%と全国、大阪府の平均正答率を下回っていました。原因としては「数と式」を柱とする領域と「データの活用」を柱とする領域の正答率が低いことや、「関数」を柱とする領域の短答式の問題において無解答率が高かったことがあります。

#### ○理科について

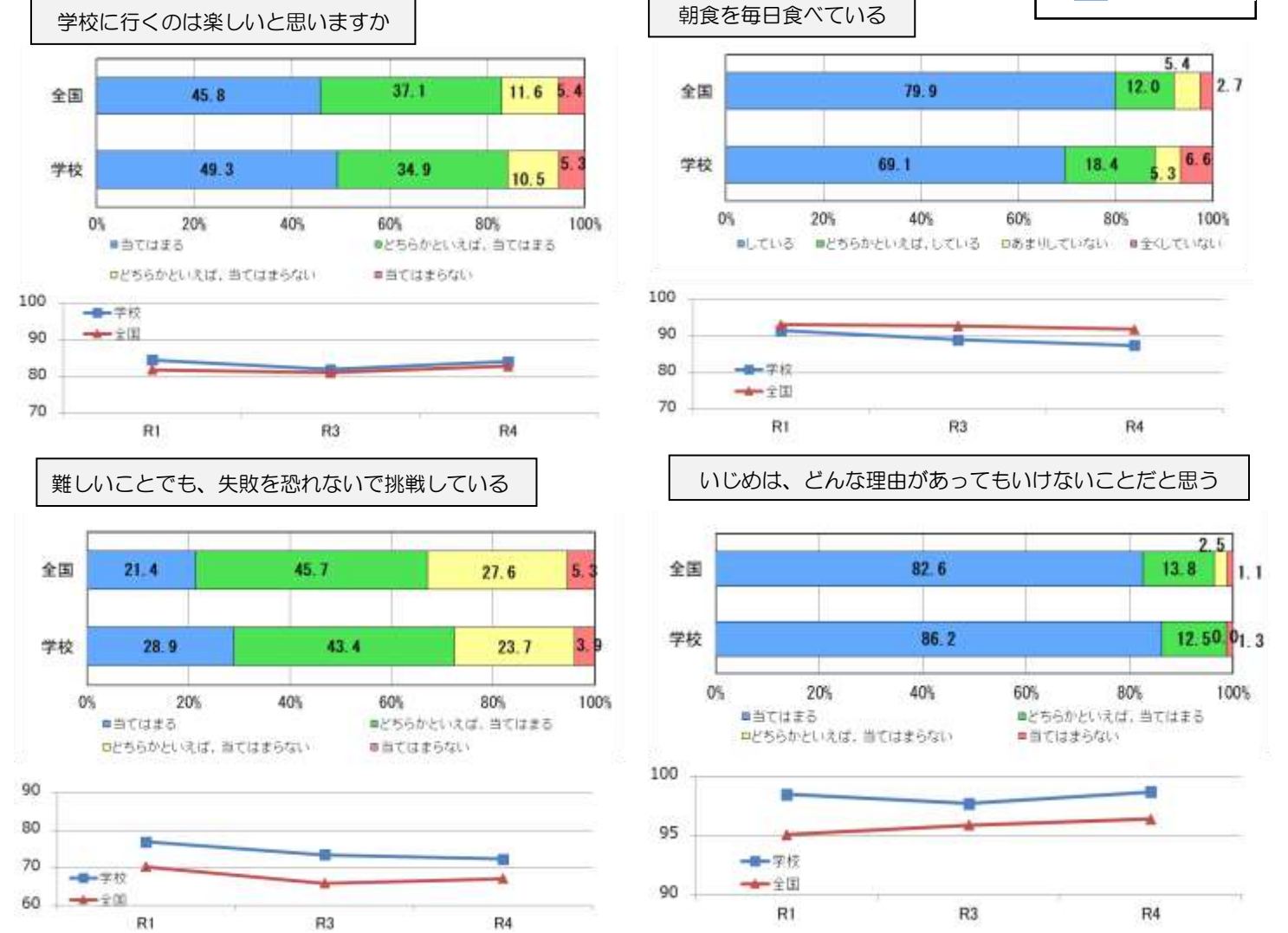
→本校の平均正答率は46%となり、全国(公立)の平均正答率49.3%、大阪府(公立)の平均正答率47%、を下回りました。原因として「エネルギー」を柱とする領域と「生命」を柱とする領域の実験分野において無解答率が高かったことが考えられます。

## 質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。  
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

▲ 全国  
■ 本校



### <質問紙調査結果の概要>

前向きに学習に取り組み、落ち着き、規律ある学校生活を送っており、「学校に行くのが楽しい」に「当てはまる」生徒は、約半数います。7割を超す生徒が「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と答えられている背景には、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」のように、相手の気持ちを考えて行動しようとする生徒が多い、3年生の学年カラーがあります。

新型コロナウイルスの感染拡大の厳しい条件下で学校生活を送ってきた3年生にも「朝食を毎日食べている」という生徒の割合の減少など、基本的な生活習慣の乱れがうかがえます。学校を休みがちな生徒も多く、家庭とも連携しながら、たくましく学ぶ力を育てたいと思います。

### まとめ

「やるべきことをまじめにやる」、授業や行事など中宮中の学校生活で身につけた前向きに取り組む力は3年生の「宝物」です。義務教育の総仕上げに向けて、いろいろな友だちと学び合う教室で、それぞれの生徒が、自分の課題は何なのかを考えて、何をやるべきかを考え、次のステップに踏み出せる授業、学級・学年そして家庭の取り組みが必要です。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

# 【詳細について】

## 教科に関する調査

<国語>

【成果が表れていた設問】

行書の特徴を踏まえた書き方について説明した  
ものとして適切なものを選択する

	正答率	無解答率
本校	44.7	0.6
全国	39.4	0.9

(考察)  
行書の際の筆の扱いや運び方に重点を置いて進めた授業や、日常的に漢字ノートと小テストに取り組んできた成果として「行書の特徴を理解する」の正答率や、2③②「文脈に即して漢字を正しく書く」の正答率は、大阪府や全国の平均正答率を上回っていました。  
2年時の授業で習った知識・技能面はある程度定着しているといえます。

【課題が明らかになった設問】

スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、  
そのように話す意図を書く

	正答率	無解答率
本校	41.3	18.7
全国	51.8	16.2

(考察)  
1③「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」、2③「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」の正答率が、府、全国を大きく下回る結果となりました。「自分の考えを文章に表す」という力が不十分であることが分かります。さらに、この2問の無解答率は、他の設問の無解答率に比べ、パーセンテージが高く、生徒の多くが苦手な分野として捉えており、できないとあきらめてしまっているのではないかと考えられます。

<数学>

【成果が表れていた設問】

証明で用いられている三角形の合同条件を書く

	正答率	無解答率
本校	74.3	6.6
全国	73.2	7.5

(考察)  
証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解しているか問う問題です。合同条件を言葉だけで覚えていたのではなく、根拠に基づいて覚えることができていたことがわかる。

【課題が明らかになった問題】

自然数を素数の積で表すことができる。

1 42を素因数分解しなさい。

	正答率	無解答率
本校	46.1	10.5
全国	52.2	11.5

	正答率	無解答率
本校	35.5	0.7
全国	44.0	1.4

(考察)  
「素因数分解」は1年生の『正の数・負の数』の単元で学んで以降、扱うことがないため、忘れていていると思われる。また、ヒストグラムの読み取りについての理解は、不十分であったと思われる。

コマ回し大会で使用するコマをヒストグラムの特徴をもとに選び、選んだ理由を説明する

(1) 二人は、どちらのコマがより長い時間回りそうかを調べるために、2つのコマを20回ずつ回し、それぞれのコマが回った時間のデータを集めました。そして、それぞれのデータについてヒストグラムをつくり、それらを比較して考えることにしました。

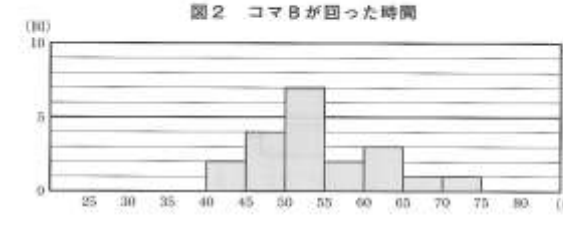
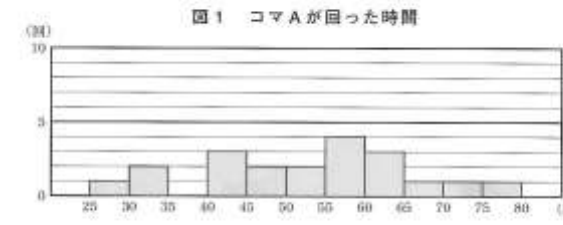


図1、図2のヒストグラムの特徴をもとに、より長い時間回りそうなコマを選ぶと、あなたならどちらのコマを選びますか。下のア、イの中からどちらか一方のコマを選びなさい。また、そのコマを選んだ理由を、2つのヒストグラムの特徴を比較して説明しなさい。どちらのコマを選んで説明してもかまいません。

ア コマA  
イ コマB

<理科>

【成果が表れていた設問】

液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する

7 水の状態変化について科学的に探究したことを、2つのグループが理科の授業でポスター発表しています。  
(1)と(2)の各問いに答えなさい。

グループ1 水が水蒸気になるときの温度変化

(1) 下線部としくみが同じ現象を、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

かき氷をすくった金属のスプーンが冷たくなる  
ラムネ菓子を食べると口の中が冷たくなる  
アルコールで手を消毒すると、手の温度が下がる  
水に食塩をかけると0℃より温度が下がる

	正答率	無解答率
本校	39.9	32.0
全国	43.3	29.4

(考察)  
グラフのプロットの数をつやしたりしてグラフを正確に判断するという問題の無解答率が高かった。具体的に数値を示した実験を計画する経験がないためと考えられる。  
大問8では、初めて見る実験の問題が出題されたが、様々な予想や仮説をたてて、それと異なる結果になった場合、実験操作や条件制御の不備の可能性を指摘できるかを問われた問題に対しても、無解答率が高かった。

	正答率	無解答率
本校	41.2	0.7
全国	35.9	0.4

(考察)  
全体的には無解答率が少なく、何かしら問いに答えようとしていました。  
この大問7の(1)は、「熱をうばって蒸発するしくみ」と同じ現象を選ぶ問いに対し、「アルコールで手を消毒すると手の温度が下がる」と答える問題です。本校には、コロナ感染防止のため、手指消毒用アルコールが数か所に設置されており、日ごろの実体験から、身近に感じられた問題だったと思われる。

【課題が明らかになった設問】

考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する

グループで個人の考察を検討している場面

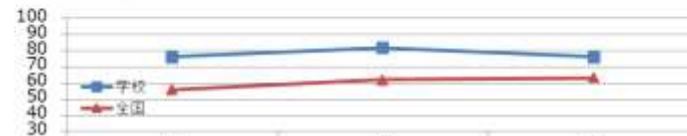
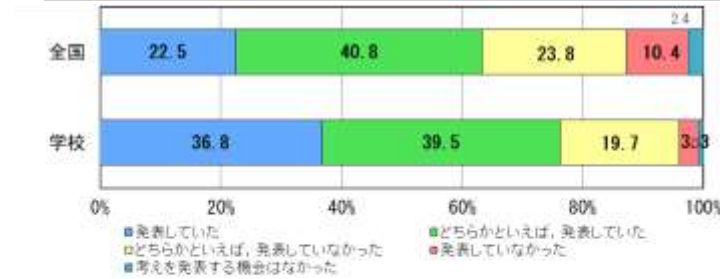
グラフが原点を通る直線になるので、比例すると考えます。  
グラフは原点を通るけれど、直線にはならないので、比例しないと考えます。  
測定値が足りないため、どちらの考えが妥当か判断できません。

(3) 下線部について、測定値をどのように増やせばよいか、【実験の計画】の「加える力の大きさを0から0.5Nずつ2.0Nまで変化させた」の部分参照して書きなさい。

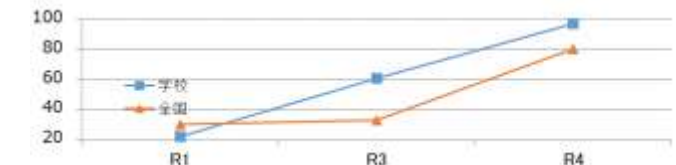
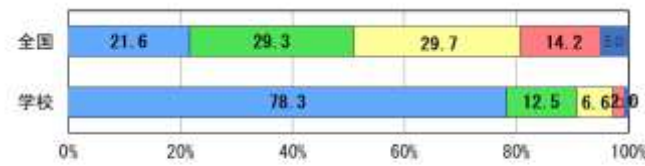
質問紙に関する調査

【成果のあった項目】

授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか

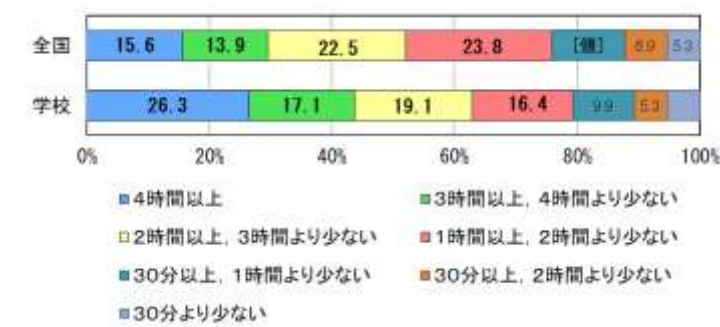


1, 2年生の時に受けた授業で、PC/タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

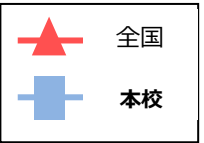


【課題が残った項目】

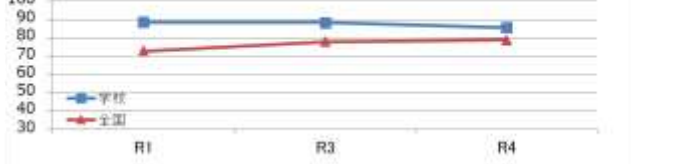
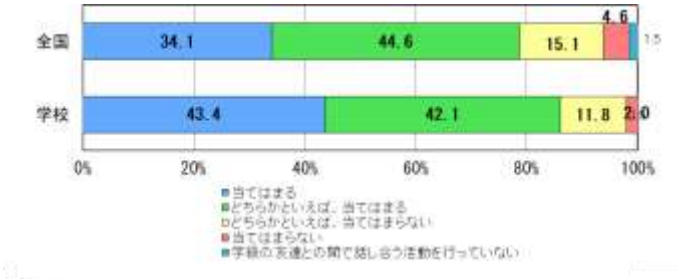
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)



※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。  
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。  
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。



学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



(考察)  
1年生の秋から導入されたタブレットを活用するなどして、新しい協働学習を取り入れた授業をすすめてきたこともあり、「学び合い」を通じて学習する姿勢が全体としては定着しています。  
しかし、自分で計画をたてて学ぶ習慣や、自分で関心を持ったことを深く考えるなど主体的に学ぶ習慣には結びついていない生徒が多いという問題もあります。  
見通しを持って学ぶ、自分の目標を持つなどすすんで学べる工夫を進めます。

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

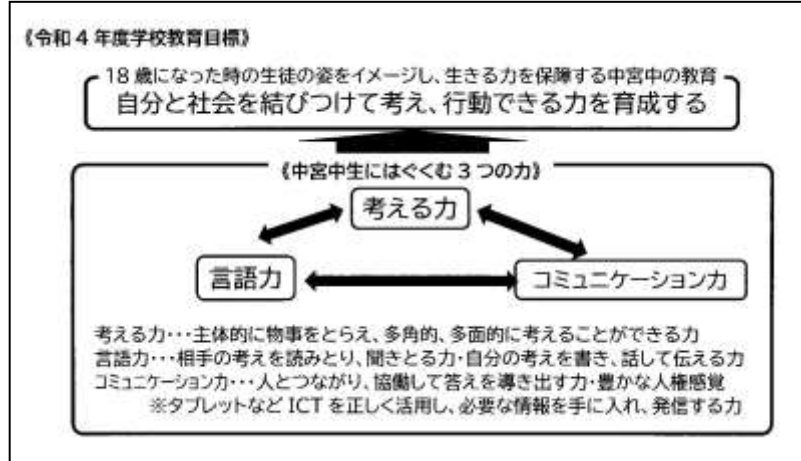


## 分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

本校では、子どもたちが大きく変化してく社会の中をたくましく、心豊かに生きていけるよう『自分と社会を結び付けて考え、行動できる力を育成する』ことを学校教育目標にしています。そして、この目標を達成するために『考える力』『言語力』『コミュニケーション力』の3つの力を育てることを意識して、授業をはじめとする教育活動の内容を見直し、充実に取り組んでいます。

今回の学力・学習状況調査の結果には、こうした取組みにより、学習に対する意欲や、ペアやグループでの協働学習に対する意識が育ってきていることが表れています。しかし、一方で「自分の考えを文章で表す」という問題ではっきりしたように、「考える力」と「言語力」はもっと身につけてはいけません。

また、朝食抜きやスマホの長時間使用、家庭学習の未定着など生活習慣に問題がある生徒も多く、「自分の生活をより良くするために自分をコントロールする力」を育てるには、ご家庭の協力も必要です。



### (1) 授業改善について

- ◎授業の中で「考えたい」と思う課題や場面設定をして、生徒の「考える力」を育てます。
- ◎タブレットなどのICTを活用したり、班学習などの協働学習を生かしたりして、生徒が自分の言葉で自分の考えを伝えること、聞き合うことを大切にして「言語力」「コミュニケーション力」を育てます。
- ◎「わからないから、教えて」と安心して言える、学び合いの環境づくりをすすめます。

教員が研修や授業研究をとおして「主体的・対話的で深い学び」につながる授業を実践できるよう、授業力の向上に努めます。生徒たちに、自分たちの姿をとおして「学びに向かう姿勢」を教えるという気持ちで取り組んでいきます。

### (2) 家庭学習について

- ◎単元計画や学びのプランを生かし、授業の学びにつながる予習、学んだことを確かめる復習、単元末のまとめを意識した学びの振り返りなど、日々の授業での学びを確かなものにする家庭学習への意識づけをすすめます。
- ◎タブレットの「学びポケット」を活用し、自分の得意を伸ばしたり、苦手を克服したりする家庭学習をすすめます。
- ◎新聞のコラムを使った『トライ・ジャパニーズ』で、「読む力」「書く力」そして「社会とつながる力」を育みます。

授業で学んだことをより確かな力にまで育てるためには、出された宿題だけでなく、予習や復習など自分に合った家庭での学習が必要です。授業の時に「わかった」と思っている、それだけでは実際に「自分でできる」ようになっていないことが多いからです。テストを受けてみると、思っていたよりもできなかったという経験をした人は多いでしょう。そして家庭学習は、「やらされる勉強」よりも、「すすんでやる学習」の方が、効果も効率も良いことは言うまでもありません。

すすんでやる家庭学習の習慣を身につけるには、目標を持ち「できるようになりたいという意欲」、例えば時間を決めてスマホをガマンするなど「生活をコントロールする力」と「学習する生活習慣を続ける環境」の3つが必要です。

学校では、学校生活を通じて、特に毎日の授業や評価の取組みを充実させて、一人一人の学習に対する目標を示し、意欲の育成や、部活動はじめ様々な取組みを通じて自信や自己肯定感、自分をコントロールする力の育成をすすめます。

ご家庭でも、「子どものがんばりを認め、励ますことばかけ」や、「すすんで家庭学習にとりくめる時間や環境づくり」をお願いします。また、スマホやインターネットの使用については、時間を決めたり、身を守るためのルールを確認したりするなど、親子で話し合う機会を持ちましょう。規則正しく健康的な生活リズムは、とても大切な「力」の土台です。